

## 感染性胃腸炎

2007.01.02

連日の新聞やテレビの報道のとおり、12月は感染性胃腸炎が函館近郊でも蔓延していました。感染性胃腸炎は12月にピークを迎える主にウイルスが原因となる感染症です。皆さんよく知っているのは、小型球形ウイルスとも呼ばれる「ノロウイルス」や乳幼児冬季下痢症と呼ばれる「ロタウイルス」、その他「腸管アデノウイルス」などです。

ノロウイルスは初期には嘔吐が強く後に下痢になることが多く、ロタウイルスや腸管アデノウイルスは発熱や嘔吐、下痢の症状が一緒に出ることが多いですが、症状でウイルスが特定できるというものではありません。また、ノロウイルスかどうかを調べてもらいなさいということを診療場面で言われる方も数多くいますが、保険適応の中で感度がよくすぐ判断できるという迅速診断は、残念ながらまだこれからという段階です。

ノロウイルスかそうでないかで、治療の方針は変化しません。嘔吐が強く脱水傾向であれば、点滴をして水分を補給。嘔吐を抑える薬を使ったりすることもあります。ノロウイルスはほとんどの場合が症状が見られるのが2～3日ですので、その間、少しずつ少しずつ水分を補給するという家庭での看病でも十分回復が可能です。最初はスプーン1杯からというのがなかなか難しいですが、スプーン1杯のお水でも5分毎に1時間、2時間と頑張れば、点滴に匹敵するぐらいの水分を補うことが可能です。

嘔吐や下痢で汚くなったものは家庭用の塩素系漂白剤を薄めて浸すか、薄めたもので汚くなったところを拭くといいでしょう。原液のものであれば200倍程度に薄めると死滅するといわれています。

もしノロウイルスだったら、厳密に対応しなければと思われる方も多いかもしれませんが、ロタウイルスその他であっても、ノロウイルスに準じた対応であれば問題ありません。

予防には、流水で手を洗うことが大切です。家族に症状がいるときは、看病するたびに手を洗うことと、手拭のタオルを共用しないことも大切です。

こどもたちが楽しい冬休みを元気に過ごせるよう、大人ができることをまず実践しましょう。